

令和 4 年 5 月 16 日現在

機関番号：34315

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K21798

研究課題名（和文）高等教育におけるキャリア教育と社会正義に関する研究

研究課題名（英文）Research on Career Education and Social Justice in Higher Education

研究代表者

前田 信彦（Maeda, Nobuhiko）

立命館大学・産業社会学部・教授

研究者番号：20222284

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：「キャリア教育」は職業教育と学校教育のニーズが交差する領域であるが、近年はとりわけ「働くための準備教育」という意味合いが強い。しかし、果たして大学のキャリア教育は、労働市場を念頭においた職業準備教育だけでよいのだろうか？ 近年、北米や欧州を中心に「社会正義（social justice）」あるいは「社会的公正（social equity）」を志向するキャリア教育への関心が高まっている。本研究では、我が国のキャリア教育が「職業教育主義」に偏っていることを反省的に振り返りながら、いくつかのデータをもとに探索的分析を行い、「社会正義」を志向する新たなキャリア教育の方向性を検討する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

我が国の先行研究を振り返ってみると、「社会正義」の概念に依拠しながらキャリア教育と公共的関心(public interest)や公共的関わりについて検討した研究はきわめて少ない。このことから、欧州等の最新のキャリア教育の研究動向を踏まえ、我が国の実態を実証的に明らかにし、それを理論的観点から考察することは、新たなキャリア教育を展開する上で社会的な意義がある。また「社会正義」あるいは民主主義の発展を視野に入れたキャリア教育研究の領域開拓という点において学術的な意義がある。

研究成果の概要（英文）：“Career education” is an area where the needs of vocational education and school education intersect, but in recent years, the meaning of “preparatory education for work” has become particularly strong. But is university career education really just about vocational education for the labor market? On the other hand, there has been an increasing interest in career education aimed at “social justice” or “social equity” in recent years, mainly in North America and Europe. However, such research is extremely limited in Japan. Taking into account some findings of previous research, I will conduct an exploratory analysis based on some of the research data. In this research practical implication in terms of the direction of new career education aiming for “justice” will be indicated.

研究分野：社会学

キーワード：キャリア教育 社会正義 ライフキャリア教育

1. 研究開始当初の背景

あらためて我が国の先行研究を振り返ってみると、教育と職業キャリアに関する研究は相当の蓄積がある。しかし、「社会正義」の概念に依拠しながらキャリア教育と公共的関心(public interest)や公共的関わりについて検討した研究はきわめて少ない。これに対して、近年、欧州を中心にキャリア教育に「社会正義」あるいは「社会的公正」の要素を取り入れようとする動きがある。筆者が2015年に参加した国際キャリア教育学(IAEVG)においても、社会正義への取り組みが活発に議論されていた。しかしその動向も、我が国では一部の研究で紹介されたにすぎない。キャリア教育を「社会正義」や「社会的公正」の視点からアプローチした研究は我が国ではほとんどみられないことから、欧州等の最新のキャリア教育の研究動向を踏まえ、我が国の実態を実証的に明らかにし、それを理論的観点から考察することは、新たなキャリア教育を展開する上できわめて意義がある。また「社会正義」あるいは民主主義の発展を視野に入れたキャリア教育研究の領域開拓という点において学術的な意義がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、社会正義(social justice)あるいは社会的公正(social equity)を志向するキャリア教育の方向性を探索的に検討し、キャリア教育の新たな実践的モデルの構築を行うことにある。

近年、高等教育の現場において実践的な職業教育への関心が高まっている。OJTを中心とする企業内教育・訓練の機会が少なくなる中、大学教育は「仕事」に役に立っているのか、といった疑問が経済界からも提起され、これに呼応する形で仕事に直結する「職業的レリバンス」が教育現場に強く求められ始めている。「キャリア教育」はそういった職業教育と学校教育のニーズが交差する領域であるが、近年はとりわけ「働くための準備教育」という意味合いが強い。しかし、果たして大学のキャリア教育は、労働市場を念頭においた職業準備教育だけでよいのだろうか？ もちろん一部の大学では「サービス・ラーニング」の中で、ボランティア活動などの実践的プログラムを展開している。しかし、我が国の高等教育機関においては、大学卒業後の「職業キャリアを通しての公共的関わり方(public engagement)」について、キャリアプランを念頭に学習する機会はきわめて限られている。「キャリア教育」と「サービス・ラーニング」あるいは「シチズンシップ教育」が連携することなく、個別の領域として存在しているのが現状である。実際、高等教育におけるキャリア教育では、「自らの職業生活(キャリアプラン)の中に「公共的関わり」をどのように組み込んでいくのか」といった点はほとんど顧みられない。

一方、北米や欧州を中心に「社会正義」とキャリア教育に関する研究への関心が高まっている。例えば2015年に日本で開催された「国際キャリア教育学会」(IAEVG)において基調講演を行ったNancy Arthurは「Social justice competencies and career development practices」など、社会正義をテーマとした研究を積極的に行っており、キャリア教育研究において新たな領域を開拓しつつある。彼らは、キャリア教育を単なる就職支援や職業準備教育としてとらえるのではなく、「ヒューマン・ライツ」、「尊厳」、「労働者の権利」といった社会的公正にまで踏み込んで議論している。このような状況下で、我が国のキャリア教育が「職業教育主義」に偏っていることを反省的に振り返りながら、社会人になる前の準備段階において、公共的関わりを追求する「社会正義(social justice)」あるいは「社会的公正(social equity)」を意識したキャリア教育をどのように展開するかについて、理論的にも裏打ちされた学術的研究が求められているといえるだろう。このような問題意識から、社会正義あるいは社会的公正を志向する新たなキャリア教育の方向性を探索的に検討することが本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究では三つの方法から上記の課題にアプローチした。第一に、主に欧州を中心とする近年の社会正義とキャリア教育に関する研究および実践動向をレビューする、第二に、国内の大学生を対象としたアンケート調査を実施し、公共性の涵養や政治的効用感、社会志向性、シチズンシップに関わる諸変数を従属変数としたキャリア教育の効果分析を行う。第三に、キャリア教育と社会正義の実践に関わる理論的検討を行う。

4. 研究成果

第一に、主に欧州を中心とする近年の社会正義とキャリア教育に関する研究および実践動向をレビューし、キャリア教育とシチズンシップ教育との関連について包括的な知見の整理を行

った。第二に、国内の大学生を対象としたアンケート調査を用いて、公共性の涵養や政治的効用感、社会志向性、シチズンシップに関わる諸変数を従属変数としたキャリア教育の効果分析を行った。また、学生インタビュー調査のデータを用いて、大学入学後のみならず、それ以前からの学校教育、特に道德教育、公民教育、ボランティア教育の累積的效果についても質的な分析を行った。第三に、キャリア教育と社会正義の実践に関わる理論的検討を行うとともに、社会正義を志向した新たなキャリア教育の実践的モデルについて検討した。

以上の研究課題への取り組みの一部は、学術誌への論文として公表するとともに、これをベースに科研費報告書の執筆を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 前田信彦	4. 巻 56(1)
2. 論文標題 大学におけるキャリア教育と社会正義 - 社会科学系学部の学生データを用いた探索的分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館産業社会論集	6. 最初と最後の頁 131-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 前田信彦	4. 巻 56(2)
2. 論文標題 キャリア教育とケアの倫理 「生き方教育」としてのキャリア教育の探求 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館産業社会論集	6. 最初と最後の頁 21-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 前田信彦	4. 巻 56(3)
2. 論文標題 大学生の職業キャリア意識に及ぼす経験と自己省察の多様性 - 修正グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA) による分析 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館産業社会論集	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 前田信彦	4. 巻 56(4)
2. 論文標題 キャリア教育の思想的基盤と潮流 「人格の完成」と「勤労」 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館産業社会論集	6. 最初と最後の頁 33-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 前田 信彦	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 248
3. 書名 キャリア教育と社会正義	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------